

公表	事業所における自己評価結果
----	---------------

事業所名	あおぞらキッズ放課後等デイサービス手形				公表日	2026年3月31日
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	○		対人距離を保てるよう家具配置を工夫し、遊びと活動のスペースを明確に分けることで、安全な療育環境を確保している。	
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	○		利用定員や子どもの状態に応じて必要な人員配置基準を遵守し、適切な職員数を確保している。	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	○		活動や滞りの準備を視覚的に示し、物の置き場を明確にするなど構造化を行い、手すりの設置など安全面にも配慮している。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	○		毎日の清掃と消毒で清潔な環境を保ち、活動内容に合わせて学習・遊び・運動のスペースを分けることで、子どもが心地よく過ごせる生活空間を整えている。	
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	○		不穏時や体調不良時には個室を使用できるようにし、必要に応じて落ち着いて過ごせる環境を確保している。	
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	○		毎月全職員が業務改善案を出して改善会議を行い、半年ごとにPDCLA表を作成して目標設定と振り返りを行うことで、職員全員がPDCAサイクルに参画している。	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		保護者向け評価表はHUGで共有し、保護者の意向を把握できる仕組みを整えており、日々のやり取りや雑談で得た声も業務改善の参考にしている。	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		朝礼や改善会議を通して職員の意見を共有し、その内容を業務改善に反映している。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		○		
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	○		職員の資質向上のため、月2回の社内勉強会への参加を義務化し、加えて事業所内でも研修を実施して学びの機会を確保している。	
適切な支援の提	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	○		支援プログラムはホームページおよび重要事項説明書に記載し、適切に作成・公表している。	
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	○		管理者と児童発達支援管理責任者が中心となって適切にアセスメントを行い、こどもと保護者のニーズを踏まえて放課後等デイサービス計画を作成している。	
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	○		計画は原案作成後に支援会議を行い、関わる職員全員の意見を共有した上で、こどもの最善の利益を考えて検討している。	
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	○		HUGの記録画面で個別の支援計画内容が常に確認できるため、職員全員が計画を共有し、活動中も計画に沿った支援を意識して行っている。	
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	○		毎日の記録に加えて、活動中の様子や保護者からの情報を職員全員が共有できるよう、必要な内容をツールのグループに利用者情報としてアップし、適応行動の把握に活用している。	
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	○		計画は本人支援・家族支援・移行支援を踏まえて必要な項目と具体的な支援を設定しているが、地域支援・地域連携は今後強化が必要である。	
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	○		活動プログラムは全員の意見を取り入れて立案し、毎日担当を交代しながらミニレクとして実施している。	
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	○		活動プログラムは毎日担当を交代して実施しているため固定化せず、加えて月2回のレクリエーションを取り入れて変化のある内容を提供している。	

供	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	○		基本は個別支援を中心に、30分～1時間程度の集団活動も取り入れており、集団が難しい子には職員が補助につくか個別対応に切り替えるなど、子どもに負担がかからないよう状況に応じて組み合わせ支援している。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	○		支援開始前には朝礼でその日の支援内容を共有し、役割分担は業務予定に明記することで、職員間での打合せと連携を確実にしている。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。		○		支援終了後に当日の振り返りは行っていないが、利用者情報を共有した上で翌朝の朝礼で職員間で気付きを確認し合い、支援内容の改善につなげている。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	○		日々の支援記録を徹底して行い、その内容をもとに支援の検証や改善につなげている。	
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	○		定期的にモニタリングを実施し、その結果をもとに放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切に更新している。	
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	○		自立支援・日常生活動作の充実、創作活動、余暇の提供については継続的に実施しており、地域交流についても清掃活動や季節のイベントで地域の方や企業と関わる機会を設けているが、実施頻度は年に数回である。	
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	○		活動や参加方法に複数の選択肢を用意し、個別・集団の切り替えやおやつ選択など、子ども自身が選べる場面を日常的に設けて自己決定の力を育てている。	
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	○		管理者や児童発達支援管理責任者が中心となって参加し、必要に応じて保護者の意向を確認し、その子の状況をよく理解した職員が参画している。	
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	○		保護者から発達検査などの情報提供を受けつつ、学校とは担当者会議や送迎時の情報交換を通して連携しており、必要な関係機関と協力できる体制を整えている。	
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	○		学校とは年間計画や行事予定、下校時刻などの情報をプリントや連絡メールシステム等で共有し、送迎時の対応やトラブル時の連絡調整も含めて適切に連携している。	
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。		○		現在は主に相談支援専門員からの情報提供が中心となっており、今後は必要に応じて直接のやり取りも増やしていけるとよいと考えている。
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。		○		現在は相談支援専門員を通じた情報提供が中心となっており、今後は依頼があれば事業所としても直接やり取りできるよう、連携の幅を広げていくことが課題である。
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。		○		地域の児童発達支援センターとの連携やスーパーバイズ・助言の受け入れは現在行っていないため、今後は必要に応じて相談や研修の機会を設けられるよう体制を整えていくことが課題となっている。
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。		○		保護者の意向や子どもの負担を考慮して慎重に対応しているが、今後は無理のない範囲で地域の子どもと関わる機会を検討していくことが課題となっている。
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。		○		自立支援協議会への参加は現在行っておらず、会議の雰囲気や内容との相性を踏まえつつ、今後の参加の在り方を検討していくことが課題となっている。
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	○		日頃からHUGでの記録共有やアプリでの動画・写真配信を行い、送迎時には口頭でも今日の様子を伝えることで、保護者とこどもの状況を継続的に共有し、共通理解を持てるようにしている。	
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。		○		相談があった際に個別に助言を行っているが、家族向け研修や情報提供の機会は十分に設けられておらず、必要に応じて提供方法を検討していくことが課題となっている。
	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	○		運営規程・支援内容・利用者負担については、契約時に丁寧に説明し、保護者が安心して利用できるような理解の確認を行っている。	
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	○		個別支援計画を作成する際は、面談や日頃のやり取りを通してこどもや保護者の意向を確認し、最善の利益を踏まえて内容に反映している。	
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	○		作成時に内容を示しながら支援内容を説明し、保護者から同意を得たうえで運用している。	
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	○		管理者が窓口として周知し、相談があった際には急な面談や時間外の電話にも対応するなど、必要に応じて適切な助言と支援を行っている。	

保護者への説明等	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。		○		働く保護者が多く平日の開催が難しいことや、土曜日は家族の休息時間を尊重していることから現在は設けていないが、今後は負担の少ない形で交流の在り方を検討していくことが課題となっている。
	41	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	○			子どもや保護者からの苦情については、全社で共有する体制と明確な対応基準を整えており、苦情があった際には迅速かつ適切に対応している。
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	○			HPからSNSへアクセスできるようにし、SNSでは週1回活動の様子を発信しているほか、行事予定はHUGを通じて一斉連絡することで、保護者へ必要な情報を適切に提供している。
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	○			社内基準に基づき適切に管理し、必要な範囲での利用と保護に十分留意して運用している。
	44	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	○			子どもには視覚的な支援や分かりやすい声かけを行い、保護者にはHUGやSNSでの写真・動画共有、送迎時の口頭説明などを通して、意思疎通と情報伝達に配慮している。
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に関わった事業運営を図っているか。		○		地域住民を事業所行事に招待する取り組みは現在行っていないが、ハロウィン等の行事でこちらから地域を訪問する形で交流を図っており、今後は無理のない範囲で地域との関わり方を検討していくことが課題となっている。
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	○			各マニュアルを整備し職員と保護者に周知するとともに、想定訓練も実施しているが、利用児の入れ替わりにより訓練に参加できない子どももいるため、今後は保護者への情報共有の工夫も検討している。
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	○			業務継続計画（BCP）を策定し、非常災害時を想定した避難・救出等の訓練も実施しているが、利用児の入れ替わりにより訓練に参加できない子どももいるため、保護者への情報共有の工夫が今後の課題となっている。
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	○			服薬・予防接種・てんかん発作等の健康情報はフェイスシートに記入してもらい、年1回の更新に加えて変更時には随時連絡を受けることで、事前に状況を把握できる体制を整えている。
	49	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	○			現在、食事やおやつ時間に利用している子どもの中に医師から診断された食物アレルギーのある子どもはいないため個別対応は発生していないが、該当があった場合には医師の指示書に基づき適切に対応できる体制を整えている。
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	○			利用児の入れ替わりがあるため全員が毎回訓練に参加できるわけではないが、実施した訓練内容や対応のポイントを職員間で共有し、安全管理の質を維持できるよう工夫している。
	51	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	○			SNSや一斉連絡を通して保護者へ周知し、家庭とも連携しながら子どもの安全確保に努めている。
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	○			児童対応会議で共有し、再発防止に向けて対応策を検討することで、安全な支援につなげている。
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	○			虐待防止に関する研修を定期的に行い、事例共有や対応の振り返りを通して、職員全体で適切な支援ができるよう取り組んでいる。
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し理解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	○			身体拘束がやむを得ず必要となる可能性がある場合には、事前の聞き取りを通して保護者へ丁寧に説明し、理解と了承を得たうえで計画に記載するようにしており、子どもと保護者が安心できる支援につながるよう配慮している。	